

● 本会の動き ●

☆ 2023年第49回経営ゼミナールに参加して ☆

今回参加させて頂いた経営ゼミナールは、化学工学会が提供する技術者の生涯学習の一環として1975年から続く歴史あるゼミナールです。第49回目となる今年は「明日の日本を私が創る～VUCA時代のビジョンを示せ！～」をテーマに化学会社、石油会社、エンジニアリング会社などのマネジメント層を中心に47名が参加いたしました。

ゼミナールは8月から11月にかけて4回のセッションで進められ、各分野に於いて著名な講師の方々によるテーマに沿った講演とグループ討議で構成されておりました。過去3年間は新型コロナウイルス禍での開催でしたが、今年は久しぶりにすべてのセッションでオンサイト開催となり、対面で討議する意義を改めて実感参加することができました。

グループ討議はまず第1回セッションに於いて事前アンケートに基づいて同じテーマを課題と考えているメンバーを中心に6グループに分かれ、各自の悩み、課題について共有し合い、各グループで解決すべき課題を設定しました。



第2回、第3回セッションでは、課題解決のヒント探しとして、ランダムな人選でグループを構成し、「イノベーションにどう挑むか」「組織のあり方・リーダーシップ」「人材育成・モチベーションアップ」「変革マインドをどう育てていくか」「社会課題にどう対峙していくか」をテーマに多くの意見交換をおこないました。最終セッションでは第1回セッションのグループに戻り、これまでのセッションで得た知識や気づきを基に設定した課題の解決に向けたグループ毎の決意宣言をまとめ上げ、発表いたしました。

我々のグループでは、チームにおける世代および価値観の違いを理解し育成しながら成果を出すことを中心に話し合いました。セッション毎に頂いたアドバイスや各職場に戻っての対話などを通じ、考え方は様々あるものの、聴くことの大切さと期待や気づきをフィードバックすることの有効性を共有したうえで、決意宣言としてまとめることができました。

仕事の繋がりとは直接関係のない同異業種・職種（製造、設計、研究、営業）、同世代、同様の社内立場の方々との討議では、別の

会社とは言えど、同じような悩みごとや問題点を抱えている状況を共有できたことに加え、各社特徴のある先進的な取り組みについてもお聞きすることができました。セッション毎の討議の中で多くの気づきを得ることができ、また自分の状況や悩みを皆さんに説明しアドバイスを頂くことで、自分自身の状況を整理し内省することができました。このグループ討議を通して、多くの刺激をもらうことができました。



さらにセッションが進むにつれて各参加者の方々との距離も縮まり、ゼミナール終了後も連絡を取り合っていくことを約束するなど、通常の業務とはまた違った貴重な人脈を作ることもできました。

各セッションでは、VUCA時代におけるリーダーのあるべき姿や、なすべきことのヒントとなるテーマについて多岐に亘る視点から計9回の講演を聴講させて頂きました。どの講師の方々からも溢れる情熱、強い信念がひしひしと伝わってきました。その中でそれぞれのテーマに沿った講演内容で、リーダーとしての考え方に限らず、実に多くのキーワードやアドバイスを頂き、多くの貴重な気づきを得ることができました。以降、各々の講演について振り返ってみたいと思います。

【東海セッション 8/25～26

邦和セミナープラザ(名古屋)】

◆「きばらんかい！未来の経営者！」

(有)志縁塾 代表取締役・人材活性プロデューサー 大谷由里子氏
本ゼミナール最初の講演です。緊張感が走る会場の中、情熱的な講師が一気に捲くし立てると緊張が緩和に変わり講演内容に引き込まれていきます。講師は吉本興業で有名芸人のマネージャーを起点に、日本を明るく元気にしたいという想いで起業されたとか。企画型・援助型・支配型・分析型のタイプ別に接する有効性や、仕事の重要性和本人の能力によって指導法を変えるやり方などが参考になりました。「人を元気にしたい」という講師の熱い想いが一番印象に残り共感を覚えました。



◆【大局観：化学工業の過去と未来】

神戸大学大学院経営学研究科 教授 三品和広 氏

19世紀に始まった化学工業の歴史と未来について解説頂いた中身の濃い講演でした。欧米の大企業が発展していく中、技術で対抗してきた日本企業ではありますが、近年は電機産業をはじめ鉄道、通信なども負けていっています。化学工業はこれから何をつくって、どこで売れるかの仮説検証を繰り返し、特徴のあるビジネスを見つけ、戦略的投資をおこなっていく必要があると強く思いました。

【習志野セッション 9/29～30

トーセイホテル&セミナー幕張(習志野)】

◆「イノベーションを起こす経営」

一橋大学ビジネススクール 客員教授、京都先端科学大学 教授

名和高司 氏

「イノベーションの父」と言われるシュンペーターの理論を中心に講演が展開します。誰もが聞いたことのある「創造的破壊」という言葉も彼が生み出したとか。イノベーションと言うと、「ゼロから何かを生み出すこと」と考えがちですが、実は「1から10(社会実装)、10から100(スケール化)」にすることに価値があると認識しました。アップル社の提供してきた新たな価値観を例に、イノベーションを生み出す基礎となる新結合、深掘りとずらしなどを分かりやすいポイントで解説頂きました。新たな価値創出には、全くの新たな領域に踏み出すのではなく、自社領域の周囲にある「未」の領域に目を向けることの大切さを実感しました。



◆「ガリガリ君 成長の軌跡と失敗 これからの挑戦」

赤城乳業(株) 代表取締役社長 井上創太 氏

子供の頃から食べ続けているアイスクャンディーの成長と失敗談に関する講演です。世間に話題提供しクチコミを誘発という一般消費者向け商品ならではのお話や、人との繋がりによって助けられたこと、人気商品の裏話など、商品開発の奥深さを事例と共に紹介頂き大変興味深く拝聴しました。「遊び心」や「やってみる」というキーワードは、経験を重ねると忘れがちになりますが、自分の仕事に対する姿勢に付け加えていきたいと思えます。

【開催セッション 10/27～10/28

ダイセル西播磨研修センター(相生)】

◆「組織経営に必要な「聴く」力～チームの能力を最大化する秘訣とは?～」

エール(株) 取締役 篠田真貴子 氏

講義は「聞く」と「聴く」の違いの解説から始まります。前者は判断しながら「聞く」。後者は判断を留保しながら(without Judgement)「聴く」。意識しないと前者になりがちですが、相手の関心ごとに好奇心を向けることでその違いが明確になってきます。「聴かれる」と人は自分のことを内省でき、新たな気づきが生まれてくることをワークの中で実感しました。チームの雰囲気作り、メンバーのモチベーションアップに対してリーダーは「聴く」ことが大切であるということに説得力が生まれます。「without Judgement」で「聴く」ことは簡単ではありませんが、まずはちょっとしたコミュニケーションから始め、このスキルを磨き続けていきたいと思えます。

◆「ピンチはチャンス! ～山口の山奥の酒蔵だからこそできたもの」

旭酒造(株) 会長 桜井博志 氏

今でこそ誰もが知る「獺祭」の開発を軸に経営再建を果たした酒造メーカーの単純なサクセスストーリーではありません。今まで存在しなかった純米大吟醸の市場をお客様の幸せ目線で開拓しただけでなく、減反や補助金漬けという悪しき農業政策に切込み、古い体質の県経団連に喧嘩を挑む姿勢などは、まさに波乱万丈の企業物語です。さらに直近ではニューヨーク郊外に酒造を建設し、日本のオリジナルを超える想いで造られた「DASSAI BLUE」をNYで発売するなど挑戦は続いています。逆境に負けずチャレンジし続ける心構え、古い風習ややり方を変えていくエネルギーに深く感銘を受け、守りに入りがちなの自分の行動を見直すきっかけにもなりました。



◆「この文明が目指す3つのムーンショットとは? 企業はどう対応すべきか ～SDGsの本質から迫る～」

SDG パートナーズ(有) 代表取締役 CEO 田瀬和夫 氏

SDGsというともまず17分野の目標が頭に浮かびますが、本講演では演題にある通り「本質」から迫ることによって私たちの考えを一変させる迫力がありました。つまり前文に記載されている

「Inclusive」や「well being」というキーワードを読み解いていくと、SDGsが目指す世界観には「世代を越えて、すべての人が、自分らしく、よく生きられる」という価値観が介在することが明らかとなります。それを実現するために、企業は社会的存在意義(パーパス)を明確にすることが重要であると説きます。自社の製品や取り組みを17目標と「紐づけ」することで思考停止することなく、企業は、継続的に、金を稼ぎながら、社会に善をなすべきであり、「きれいごとで勝つ」ことが大儀であると訴えかけます。壮大なように思えますが、目先の利益にとらわれず企業人として何ができるかを、SDGsの真の実現のために、逆算思考(サンドイッチ理論)と連関思考(ドミノ理論)を駆使し自分自身に問い続けたいと思いました。



【幕張セッション 11/24～11/25】

クロスウェーブ幕張(千葉)】

◆「逆転発想の勝利学 ～チームのスイッチを入れる～」

眞鍋政義氏

言わずと知れた現役のバレーボール女子日本代表監督であり、スポーツをどのようにビジネスの講演に繋げるのか興味津々で拝聴しました。就任時はいわゆる弱小チームに成り下がっていた全日本を世界の強豪国と渡り合えるチームに導いていく様々な工夫が語られます。目標を「明確に」「何度も」伝えること、個性・才能豊かなメンバーを束ねるためのコミュニケーション術、適切なフィードバック、効果的な演出、継続は力なり、プラス思考等々。チームを束ね、目標に向かうことはビジネスにも通じます。今回伺った考え方・手法を明日から実践し、チーム力強化・人材育成

に活かしていきます。

◆「社会課題をイノベーションで解決する：どこに行くのか旗を立てよう」

法政大学大学院イノベーション・マネジメント研究科 教授、

一橋大学イノベーション研究センター 名誉教授 米倉誠一郎氏

日本人は創造的でないという議論をよく聞きますが、明治から昭和にかけては創造的対応を実行してきた多くの日本人(高峰譲吉や大河内正敏ら)がいたという歴史的な事実を紹介されます。共通目標を持つと日本人は意外と強く、SDGs達成は日本人の気質にあった目標であることが腑に落ちてきます。近年日本は単位生産性が低く、平均賃金でも多くの国に負けています。ではどうすれば良いか。まずはGroup Think(集団浅慮)を打破り、多様性を重視し、チャレンジングな新たな行動を起こすことが大切だと説きます。似たもの同士ではない異なる視点を持った多様性のあるチームこそが結果としてのイノベーションを生み出すのだと。今回異業種の方々との交流をきっかけに自分の行動範囲を広げて行こうと強く実感しました。講演の中でお聞きした現実を直視した「楽観主義」というワードが自分には深く刺さりました。

【最後に】

ご講演頂きました講師の皆様、充実したプログラムをご準備頂いた事務局と世話役の皆様に厚く御礼申し上げます。また、グループ討論で悩みや気付きを共有させて頂いた第49期の皆様方にも改めて御礼申し上げます。

4回のセッションを通じて討議時間のみならず懇親会やその後も遅くまで続く会話の中で、親睦を深め皆様の熱い情熱を肌で感じる事ができ大変思い出深いゼミナールとなりました。49期の方々とは良き同窓として親交を継続し再会することを約束させて頂きました。

最後に本ゼミナールが今後も末永く続き、化学業界並びに化学工学に携わる方々の交流と発展に寄与していくことを祈念いたします。

(日産化学株式会社 黒川吉伸)

● 新入会員 ●

—12月分—

地区特別会員 1社(1口)

室町ケミカル(株)(1)(九州支部)

[事業内容]医薬品の企画／製造／販売、健康食品の企画／製造／販売、イオン交換樹脂の販売／処理、給排水処理装置の設計／販売